

福いいネ！ 福井が行く 福いいネ探しの旅

北陸新幹線

福井

開業まで

あと

6 か月



10月1日にオープンする、福井駅東口の福井市観光交流センター。屋内広場には、「繊維王国福井」が誇る高度な技術が生かされた、縦3m×横4mの2枚の大型タペストリーがつるさされています。今回は、その制作に携わった2社を紹介します。

FILE.3 「Made in 福井」でおもてなし

IT を駆使した最先端の染色技術

北側のタペストリーは、セーレン株式会社が制作。独自の染色技術により、高精細な絵柄や写真を1677万色で鮮明に描写しています。用いられているのは、「ビスコテックス」と呼ばれる独自のIT技術で、多品種かつ少量生産ができ、原材料や水、エネルギーの使用量も少なく済む環境に優しい技術です。100年以上にわたり蓄積してきた繊維技術と、最先端のIT技術の融合により完成したタペストリーで、福井の玄関口を鮮やかに彩ります。



北陸新幹線やそば、越前がになどが両面にあしらわれたデザイン



「福井の明るい未来」をキーワードに、鮮やかに福井らしいデザインに仕上げました。タペストリーを見て、新幹線と共に走り出す福井とオンリーワンの繊維技術を感じていただきたいです！



セーレン商事(株)
商品販売部 部長
福澤 伊久男さん

Check!

北陸新幹線の内装にも！

北陸新幹線の最上級車両「グランクラス」のアルミ製のデッキパネルにも同技術が採用されています。繊維で培ってきたインクジェット技術を、金属やプラスチックなどさまざまな素材に応用しています。



県鳥のツグミなどを高精細に表現

繊維王国福井の技術が結集

南側のタペストリーは、日本ダム株式会社が制作。衣料品に付けられるタグやワッパンを織物で製造する「織ネーム」の技術で培った経験と勤を生かし、わずかに8色の糸で何万色もの色を表現しています。1枚の写真を4、5枚に分割して織り上げ、市内の(株)ウエマツが難燃加工を施した後、越前市の(株)ファインモードが縫製をし、1枚ものに仕上げました。表面とヨコ糸が織り込まれた裏面とで、色合いが異なるのも織物ならではの。福井の技術が結集した重厚感あるタペストリーで、「繊維王国福井」をPRします。



(裏)

(表)

「一乗谷朝倉氏遺跡と和傘スカイ」はカラフルで映えるデザイン

和傘の質感や浴衣のしわなど、細部にもこだわり、再現しました。3社の技術が合わさったからこそできた傑作です。地元の繊維技術を、織りタペストリーを通して皆さんに知っていただきたいと思います！



何度も話し合いを重ねた色選びの様子



日本ダム(株)
商品開発部 課長
乾 義明さん